

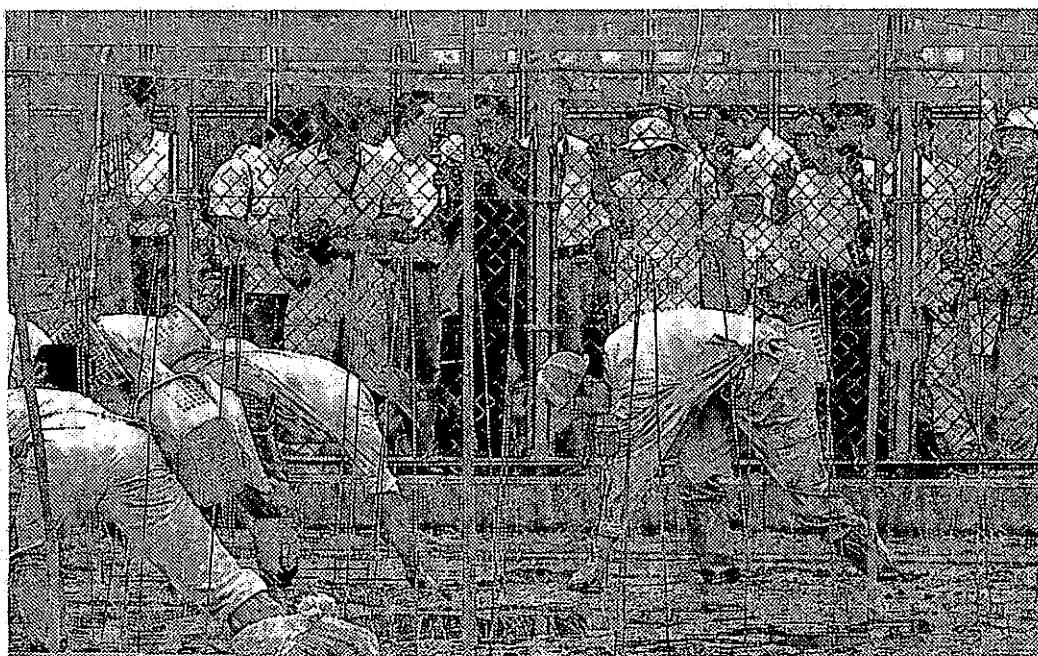
6月30日(木曜日)

新潟農業新聞

の異常

猪瀬直樹氏

反対派の見学者たちが見守る中、隔離場内でカラシナの遺伝子を持った稲を植え付けた担当者たち(29日前、新潟県上越市稻田)



病気に強い? 遺伝子組み換えイネ 交雑の危険?

国の独立行政法人「中央農業総合研究センター」(新潟県上越市稻田)で29日、病気に強い稲の開発を目的に、遺伝子組み換えイネを屋外で栽培実験するための田植えが行われた。5月にも行われており、この日の約800本と合わせ計約1,900本を育てる。

実験をめぐっては、花粉が飛んで交雑する危険性が

隔離農場で田植え

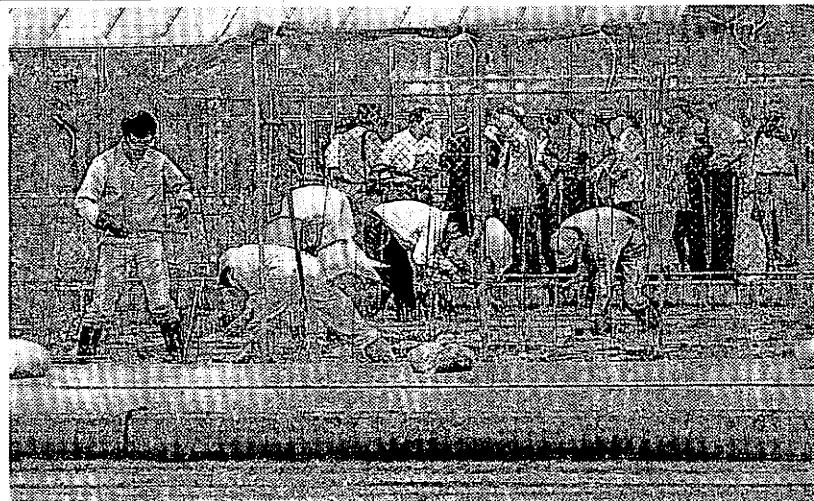
あるなどとして、一部農家らが中止を求め、新潟地裁高田支部に仮処分を申請している。29日までに中止命令は出でていない。田植えがあつた隔離場には反対農家ら約40人が駆け付け、中止を求める一方6000人分の署名を提出した。

同センターは「一般農家のイネの開花時期とずり、穂に袋がけするなどの措置を取る。花粉交雑の心配はない」と説明している。

となる。公団ルートに探し、市場から資金調達しない社の会員内定者は出来る時、コスト意識にしてしまう。早い段階で国民に向かう企業努力の見られようも無い

新潟日報

05.6.30



金網越しに生産者らが抗議するなか、2回目の田植えが行われた(29日午前10時30分)上越市稻田1

組み換え稻

田植えを続行

北陸研究センター 生産者らが抗議

中央農業研究センター(片山秀策センター長)は二十九日、上越市稻田一の隔離は場で遺伝子組み換え稻を田植えした。組み換え稻の屋外実験は先月三十一日に次いで二回目。実験に反対する県内外の生産者や消費者が同センターに詰め掛け、実験中止を再度求めた。

今日は病気に強い遺伝

子を組み込んだ「どんとこい」〇・五结合起来付けし、出穗、開花などの生育調査や採種を行う。同センターは開花期間に穂

に袋を掛けなど交雑防止策を取るとしている。

北陸研究センター(片山秀策センター長)は二十九日、上越市稻田一の隔離は場で遺伝子組み換え稻を田植えした。組み換え稻の屋外実験は先月三十一日に次いで二回目。

実験に反対する県内外の生産者や消費者が同センターに詰め掛け、実験中止を再度求めた。

今日は病気に強い遺伝子を組み込んだ「どんとこい」〇・五结合起来付けし、出穗、開花などの生育調査や採種を行う。同センターは開花期間に穂

いない段階で、屋外実験を行ってはいけない」という職員に詰め寄る場面もあった。

田植えに先立ち、実験

中止を求める県総合生協

組合員ら一万五千五百六

十人分の署名が片山セ

ンター長に手渡された。

二回目の実験に関しては、同市の農家らが地裁

高田支部に実験中止の仮処分申請を行っている。

片山センター長は「稻の生育面から田植えの延期

はできない」と話した。

卷之三

卷之三

卷之三

圖 10-2 GM 總經理在廈外觀美陳方案示例



卷之三